

花粉発生源対策の推進

【 1 4 5 (8 5) 百万円 】

対策のポイント

花粉症の緩和に向け、花粉症対策苗木の供給拡大と山元での植替えを推進します。

< 背景 / 課題 >

- ・近年では国民の3割が罹患し国民病とも言われている花粉症は、医療費の支出、労働生産性の低下等国民経済上のマイナス要因となっています。
- ・スギの花粉症対策苗木の供給量は平成17年度の9万本から平成24年度には160万本と約18倍に増加していますが、平成24年度のスギ苗木供給量全体に占める花粉症対策苗木の割合は約1割という状況です。
- ・花粉症の緩和に向け、花粉症対策苗木の供給量の増大を図るとともに、山元での植替えを推進していくことが必要です。

政策目標

スギの花粉症対策苗木の供給量
(160万本 (24年度) 1,000万本 (29年度))

< 主な内容 >

- 1 . 花粉症対策苗木の供給拡大等 [新規] 1 4 5 (8 5) 百万円
(1) ミニチュア採種園等の整備 1 8 (1 8) 百万円
花粉症対策苗木等の生産を目的としたミニチュア採種園の造成・改良等を支援します。
- (2) 種苗生産施設の体制整備 4 5 (5 0) 百万円
花粉症対策苗木の生産拡大に向けた育苗機械や種苗生産施設等の整備を支援します。
- (3) コンテナ苗生産の技術研修 2 6 (-) 百万円
花粉症対策苗木の生産を拡大するため、苗木生産者に対し、花粉症対策品種等のコンテナ苗生産の技術研修等を実施します。
- (4) コンテナ苗需給拡大 1 2 (-) 百万円
花粉症対策品種等のコンテナ苗の生産や利用の拡大を図るため、苗木生産者、造林事業者、素材生産業者、行政、研究機関等が一堂に会して合意形成や条件整備等に取り組む協議会の設置・運営等を支援します。
- (5) 花粉症対策品種の生育環境への適応性の評価 2 0 (-) 百万円
地域によって花粉症対策苗木の生産量に偏りがあり、苗木の広域的移動が必要となるため、異なる気象条件で正常に生育が可能かどうかの実証・分析を実施します。
- (6) 普及啓発活動の実施 8 (-) 百万円
森林所有者や林業関係者に対する花粉発生源対策に係る普及啓発活動を実施します。
- (7) スギ・ヒノキ花粉飛散量推定の推進 1 6 (1 7) 百万円
スギ花粉発生源推定のためのスギ雄花の着花状況の調査及びヒノキ花粉発生源の推定に向けた実証調査に対する支援を実施します。

補助率：1 / 2、定額
事業実施主体：都道府県、事業協同組合、農業協同組合、
森林組合、民間団体等

- 2 . 花粉発生源対策促進事業 [新規] 農山漁村地域整備交付金で実施
 1 3 3 , 5 3 1 (-) 百万円の内数
 花粉症対策苗木に対する需要の喚起を図るため、スギ人工林等の花粉発生源とな
 っている森林を対象として、花粉発生源の立木の伐倒・除去及び花粉症対策苗木の
 植栽に必要な経費の一部を支援します。

補助率：3 / 10 (国)
 事業実施主体：都道府県、市町村、森林所有者等

(関連対策)

- 1 . 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 (農林水産技術会議事務局)
 「菌類を活用したスギ花粉飛散防止液の高度化と実用的な施用技術の開発」
 6 , 0 3 8 (5 , 2 1 7) 百万円の内数
 スギ花粉飛散防止剤の製品化や効果的な散布手法の開発等、スギ花粉の飛散防止
 技術の実用化に向けた研究を推進します。(平成26~28年度、委託先：独立行政法人
 森林総合研究所等)
- 2 . 新たな木材需要創出総合プロジェクト 3 , 0 6 6 (-) 百万円の内数
 花粉発生源となっている森林から生産された木材等地域材の利用を促進するため、
 新たな地域材需要の創出に向けた製品・技術の開発・普及促進や、建築物・木材製
 品・木質バイオマス等の各分野での木材利用を幅広く拡大するとともに、これらの
 需要に応えうる地域材の安定的・効率的な供給体制の構築等を図ります。

お問い合わせ先：

1 の事業	林野庁整備課	(0 3 - 3 5 0 2 - 8 0 6 5)
	森林利用課	(0 3 - 3 5 0 1 - 3 8 4 5)
	研究指導課	(0 3 - 6 7 4 4 - 2 3 1 2)
2 の事業	林野庁整備課	(0 3 - 3 5 9 1 - 5 8 9 3)
関連対策 1 の事業	農林水産技術会議事務局 研究推進課	(0 3 - 6 7 4 4 - 7 0 4 4)
関連対策 2 の事業	林野庁木材利用課	(0 3 - 6 7 4 4 - 2 2 9 6)

花粉発生源対策の推進 平成27年度予算概算要求額【145（85）百万円】

【背景／課題】

スギ花粉症は今や国民の3割が罹患しているといわれており、花粉発生源対策を推進する必要。
これまで少花粉スギ等の花粉症対策品種の開発・生産拡大等に取り組んできたが、スギ苗木供給量全体に占める花粉症対策苗木の割合は約1割という状況。

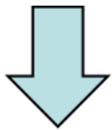
【対策のポイント】

花粉症の緩和に向け、花粉症対策苗木の供給量の増大を図るとともに、山元での植替えを推進します。

【目標】

スギの花粉症対策苗木の供給量

160万本
(24年度)



1,000万本
(29年度)

花粉症対策苗木の供給拡大等



ミニチュア採種園等の造成への支援



種苗生産施設等の整備に対する支援



生産技術習得・向上の取組への支援



花粉症対策品種等のコンテナ苗の生産や利用の拡大に取り組む協議会への支援



- 森林所有者の花粉発生源対策への普及啓発
- 花粉症対策品種の生育環境への適応性の評価
- 花粉飛散量推定のための調査

山元での植替えを推進 (花粉症対策苗木に対する需要の喚起)



- 花粉発生源の立木の伐倒・除去を支援
- 花粉症対策苗木について、コンテナ苗による植栽等を支援

花粉発生源対策で伐採された 木材等地域材の利用を促進 (関連事業)



- 分別管理・流通等のための取組を支援
- 地域の工務店等によるモデル的な木材利用拡大を支援等